

対象者限定研修会より 音楽科の実践



佐賀大学教育学部附属小学校
向井 千晶
江頭 範朗

本題材の実践「曲のかんじを生かそう」(第3学年)

指導者 向井千晶

1 題材について

本題材は、2年生時の「ようすをおもいうかべよう」や3年生前題材の「せんりつのとくちょうを感じとろう」、そして4年生時の「曲の気分を感じ取ろう」と関連しています。リズムの反復や変化、旋律の音の上がり下がり、曲の山などの前題材までで学習した知識を使って曲の特徴を捉え、それらが曲の感じと関連していることに気付かせたいです。歌唱、器楽、鑑賞のそれぞれの領域から曲想について迫っていきます(図1)。

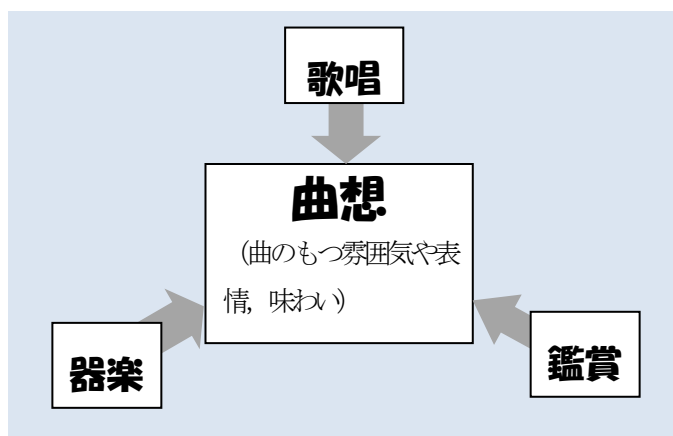


図1 題材のイメージ

2 題材計画と評価規準

次	時	○主な学習活動 (音楽を形づくっている要素)	主な評価規準(◆)【観点】
第一次	1	○旋律の特徴を感じ取りながら聴く。(旋律, リズム)	◆曲想やその変化と, リズムや旋律との関わりについて気付いている。【知・技】
	2	○曲全体を味わいながら聴く。(音色, 反復, 変化)	◆バイオリンとピアノの音色やリズム, 旋律などとの関わりについて考え, 曲や演奏のよさや面白さを見だし, 曲全体を味わって聴いている。【思・判・表】 ◆曲のよさや面白さを感じ取りながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。【主】
第二次	3	○曲の雰囲気を感じ取ったり, 特徴に気付いたりする。	◆曲想と旋律の反復や変化, 歌詞の内容との関わりについて気付いている。【知・技】
	4	○曲想や歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。(旋律, 反復, 変化)	◆旋律の反復や変化, リズムなどを聴き取り, それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 曲の特徴を捉えた表現を工夫してどのように歌うかについて思いや意図をもっている。【思・判・表】
第三次	5	○思いや意図に合った表現で歌う。(旋律, 反復, 変化, 強弱, 音色)	◆呼吸や発音の仕方に気をつけて, 思いや意図にふさわしい, 自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。【知・技】 ◆曲のよさや面白さを感じ取りながら工夫して歌う学習に進んで取り組もうとしている。【主】
	6	○ファとミの運指を覚え, 音色に気を付けてリコーダーで演奏をする。	◆リコーダーの音色や響きと, タンギングや息の流れなど演奏の仕方との関わりについて気づき, 音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けている。【知・技】
第三次	7	○旋律の特徴に合う表現を工夫して, リコーダーで演奏をする。(旋律, 反復, 変化, 強弱, 音色)	◆音色やリズム, 旋律などと曲想との関わりについて気づき, どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【思・判・表】 ◆曲想と楽器の音色やリズム, 旋律との関わりが生み出す曲のよさや面白さを感じ取りながら, 曲想に合った表現を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【主】

3 授業実践 (4 / 7)

【第一次 (1, 2時目) 鑑賞「メヌエット」】

第一次では「メヌエット」を鑑賞し、なめらかな部分 \square アとはねるような部分 \square イの曲想の違いを味わいました。3年生では初めての鑑賞です。

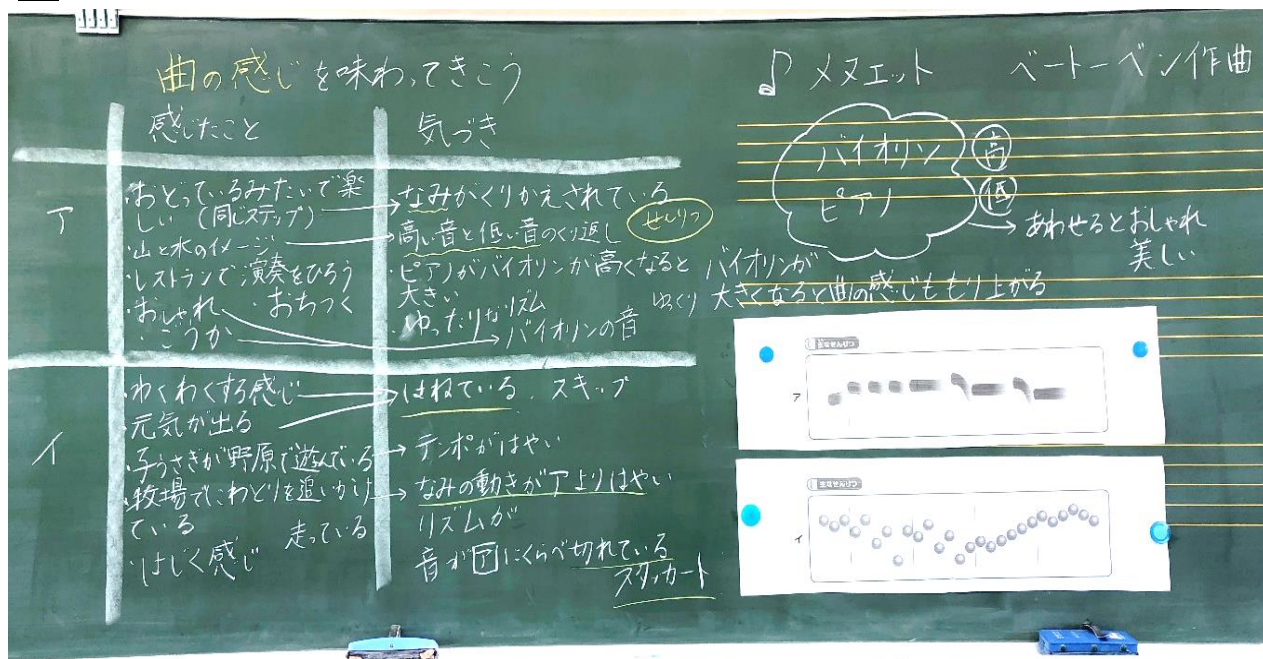


図2 1時目の板書

○旋律の動きを確かめる帯活動

授業の始めにその題材や本時で中心となる共通事項や音楽の仕組みについて触れられるような活動を取り入れています。

「指揮者」である指示役が旋律の動きや強弱を示し、その通りに声を出したり歌ったりするゲームです。腕の上下運動で音の高さを、腕の幅で強弱を、手の動かし方ではねる感じやなめらかな感じを表します。慣れてくると「指揮者」役を児童に任せることもできます。注目する要素を変えながら、低学年から高学年まで、どの学年も楽しみながら簡単に行うことができます。

前題材と本題材では、音の上がり下がり動き（はねている感じやなめらかな感じ）を中心に行いました。十分に旋律を味わうことで、鑑賞する際の気づきにつながりました。

○知覚と感受の往還

子ども達が述べた様々な思いや気づきを結び付けながらまとめていきます。感じたこと（感受）、気付いたこと（知覚）を結び付けて考えることが難しい児童もいるため、クラスで共有し一人の気づきを全体に広げ、深めていきます（図2）。

○音楽を可視化する

前時のつながりから、旋律の動きに合わせて手を動かす児童がいました。なぜそのような動きになったかを問い、全体で旋律の動きを共有します。音の上がり下がりや、はねている感じ、なめらかな感じなどがつかみにくい児童には、動きや言葉、絵などを用いて可視化することが効果的です。子ども達が音楽を聴いている時にどのような表情をしているか、どのようなからだの動きをしているかを見取り、価値付けていきました。

【第二次（3、4、5時目）歌唱「帰り道」】

○歌詞の内容と曲想を結びつける

既習曲をたくさん歌い、曲の感じを確認しました。そして、本題材で取り扱う曲を、曲名「帰り道」から連想していきました。生活と音楽とを結び付けたいためです。それから歌詞の音読をし、曲の雰囲気予想します。「悲しい曲」「暗い曲」「学校が終わって嬉しい感じ」など様々な予想がある中で、「帰り道」の曲の雰囲気を味わいました。歌詞の内容から予想した曲想が合っているかを確認し、歌詞と曲想との関わりをまとめていきました（図3）。

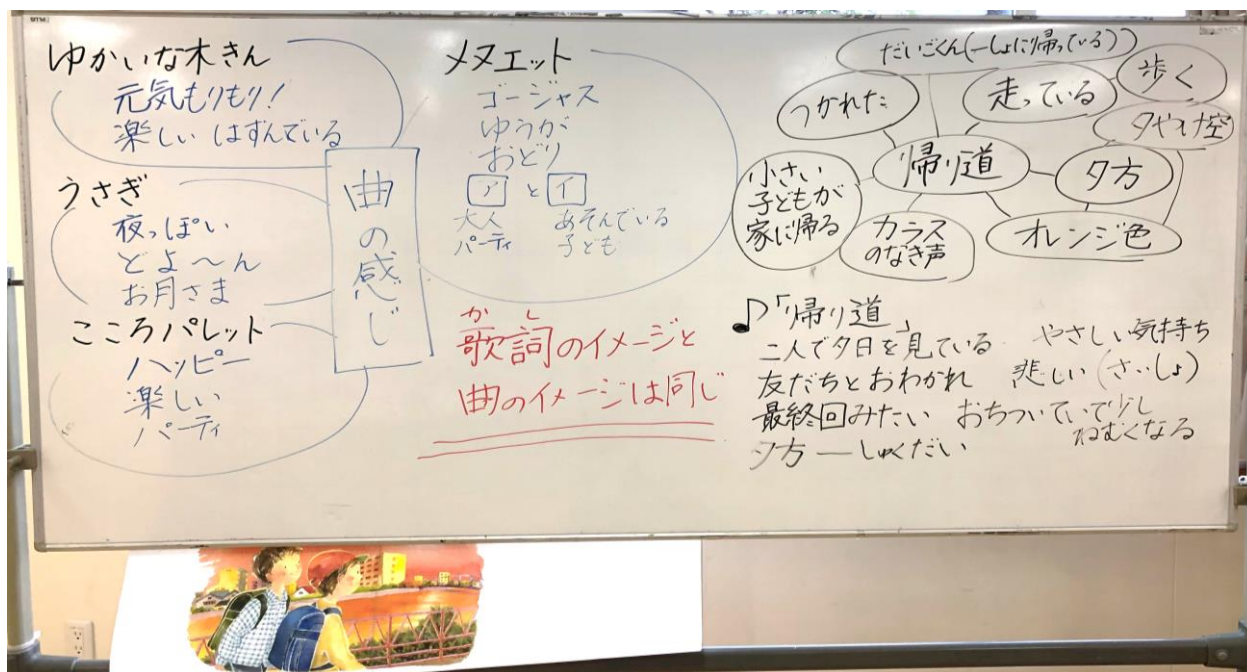


図3 3時目の板書①

さらに、歌詞の内容や曲想と、曲の特徴（旋律、リズム）との関わりを全体で確かめました（次頁図4）。リズム打ちをして反復を実感したり、階名唱をして音の高さを確認したりしていき、アとイに違いがあることが大きな特徴となりました。

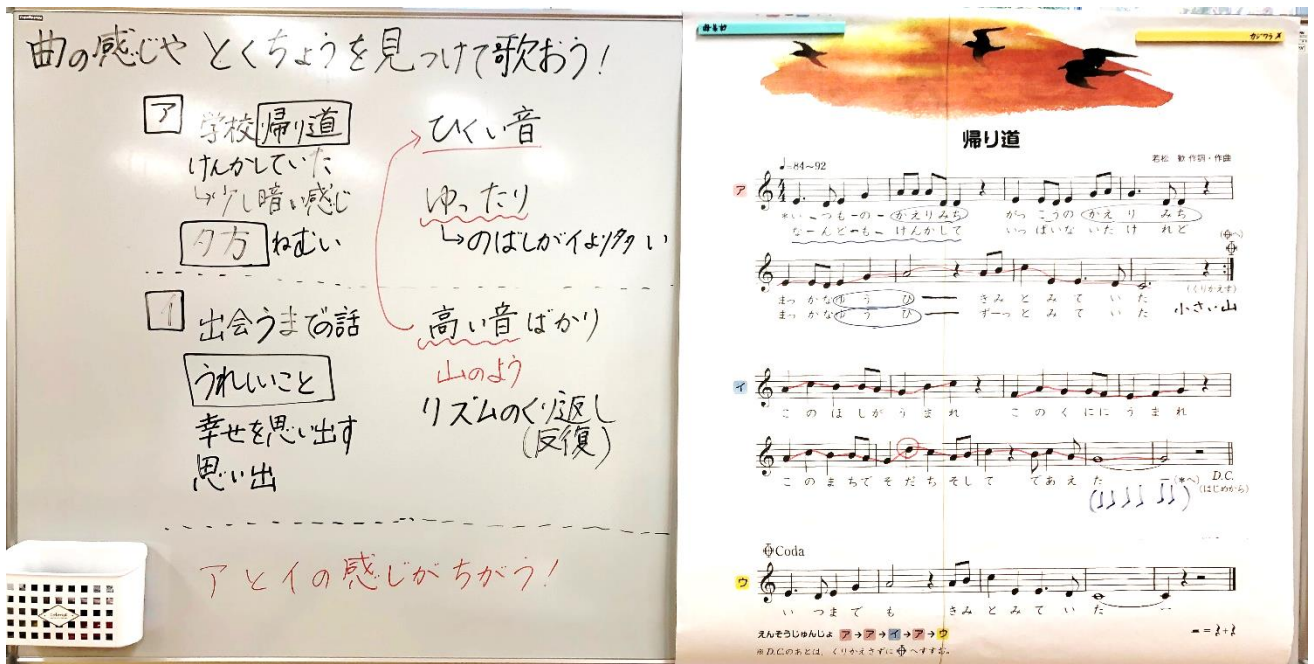


図4 3時目の板書②

○曲想に合わせた表現について思いや意図をもつ

6時目では、曲想に合った無理のない自然な声の出し方や表現の工夫について思いや意図をもつよう活動を行いました。自分たちの歌声をタブレットで録音し、聴くことで「イで盛り上げたい」「やさしく歌いたい」などの思いをもたせたいです。それを曲の特徴と結び付けながら、表現に対する思いや意図につなげます。思いや意図をもつことで、それを表すための表現の技能を身に付けたいという児童の意欲もさらに高まりました。「もっとこうしたい!」の意欲を、次時の「帰りの道」「にじ」への歌唱やリコーダーの演奏とつなげていきました。

○振り返り

児童が題材を通して自分の学びを振り返り、次の学習へと生かしていくことができるように、振り返りのワークシートを題材全体でまとめています(図5)。題材全体での児童の学びを見取り、評価に活用していきます。

曲の感じを生かそう		3年 組 番 名前
月 日		ふりかえり
月 日	<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じのちがいを感じてきた ◎ ○ △ 曲の感じのちがいについて、理由をみつけながらきた ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> メヌエットをきいて、自分の好きなところをさがしながらきた ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> 「帰りの道」をのびのび歌った ◎ ○ △ 「帰りの道」の曲の感じやとくちょうを見つけた ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> 「帰りの道」の感じを生かして歌い方の工夫を考えた ◎ ○ △ 友達と話し合っ工夫を考えた ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> 「帰りの道」の工夫を練習して歌った ◎ ○ △ 「にじ」の曲の感じを生かして歌った ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> ファとミのゆびをおぼえてふいた ◎ ○ △ 「山のポルカ」の曲のふんいきを感じとった ◎ ○ △ 	
月 日	<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じに合わせてふきかたを工夫した ◎ ○ △ 拍ののってふくことができた ◎ ○ △ 	

図5 振り返りのワークシート